

災害の世界史

【目標】

世界史の中の災害について知り、人びとが災害とどのように向き合ってきたのか考え、

現代に生きる私たちがどのように災害に備えていくべきか、考えよう!

【1】古代都市ポンペイ

○ポンペイとは・・・?

イタリア半島の南西部に位置し、ギリシア人の植民によって建設されたネアポリス、現在の(1)、そこから南東へ約26キロ離れた地点にポンペイという町がありました。

ポンペイは西暦79年8月24日の午後、ヴェスヴィオス山が噴火したため、一夜にして消えてしまいました。その当時ヨーロッパでは、(2)帝国が繁栄を極めていました。その結果(2)帝国の各地に数多くの古代(2)風の都市が建てられました。都市には剣闘士競技を行う(3)や市民の娯楽場の1つであった(4)などが建設された。

当時のポンペイの人口は約7000人~1200人とみなされ、下の写真のように遺跡からは複数の豪邸が発見されました。それらの豪邸は(5)農園主や牧場主の邸宅であり、かれらは莫大な富を得ていました。さらに、人口の約40%を占めた(6)階級が大農園で小麦や(5)を生産するための過酷な労働に従事し、ポンペイの繁栄の基礎を支えていました。

(7)時代の天明3年(1783年)に浅間山の噴火により483名の犠牲者を出した(8)県の鎌原村は、ポンペイをモデルに発掘調査が行われた為、「日本のポンペイ」と呼ばれています。

(1) ファウヌスの家で発見されたモザイク画に描かれている人物は誰?

(2) ヴェスヴィオス山が噴火する17年前、イタリアである災害が起こりました。ヴェスヴィオス山噴火に関係した可能性もあるその災害とは何でしょう?

(3) ポンペイの遺跡が約2000年前の姿で残っているのはなぜだろう?



ファウヌスの家のモザイク画



ポンペイ 秘儀荘の間

【2】中世ヨーロッパ

(A) 1529年6月13日朝、バーゼルの上にも「天の水門」が開いた。その翌日、「水の塊」が聖書にあるノアの洪水のようにバーゼルの中心部に流れ込んだ。

(B) 1494年7月1日クレタ島のカンディアで、突然部屋が揺れ動き、壁が崩れ落ちた。その後、町の鐘という鐘が鳴らされ、祈願行列が次々と教会から街路へと出て行った。

巡礼たちもローマ・カトリック式の行列を組んで、破壊された街を練り歩いた。



(揺れる大地 (1580年頃 挿絵))

(C) 神の子の降臨から歳月が1348年目に達した頃、イタリアのすべての都市の中で最も美しいフィレンツェの町に恐ろしい悪疫が流行しました。

それは天体の影響に因るものか、或いは私どもの悪業のために神の正しい怒りが人間の上に罰として下されたものか、いずれにもせよ、事の起りは数年前東方諸国に始まって、無数の生霊を滅ぼした後、休止することなく、次から次へと蔓延して、禍いなことには、西方の国へも伝染して来たものでございました。



(施療院の混雑と医師の治療)

(1) A~Cの史料を読み、どのような災害について述べているか考えよう。

A	B	C

(2) Aの史料を読み、中世の人びとは洪水を聖書に出てくる「ノアの洪水」と例えている。

「ノアの洪水」はどの宗教の聖書に出てくるもの？

(3) Bの史料を読み、人びとは災害後どのような行動をとっている？

(4) Cの史料を読み、中世ヨーロッパの人びとは悪疫の原因をどのように考えている？

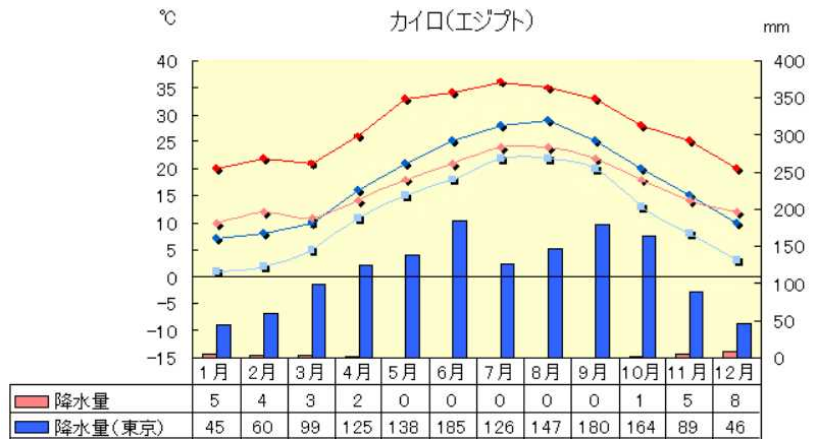
(5) A~Cの史料を読み、中世ヨーロッパの人びとの災害に対する考え方、現代の私たちの災害に対する考え方、どんな違いがありますか。自分の考えたことを書こう。

【3】 エジプトはナイルの賜物

○エジプト文明とは・・・？

エジプトでは、紀元前 3200 年頃に統一国家が成立し、(1) と呼ばれた王が神の子として専制的な (2) 政治を行い、巨大な王墓である (3) を造営した。太陽神を中心とする多神教崇拜が行われ、死後の復活を信じて (4) が作られた。その棺には紙の一種である (5) に象形文字の (6) で書かれた「(7)」が納められた。

(1) エジプトと東京の降水量を比較した時、エジプトの特徴について説明しよう。(グラフ①)



グラフ① 東京とエジプトの降水量

(2) 雨の少ないエジプトで、なぜナイル川は毎年氾濫したのか考えてみよう。(地図①)



地図① ナイル川流域図

(3) 「エジプトはナイルの賜物」とはどういう意味？

【4】ロンドンの大火



(1)



(2) 宮殿



(3) 博物館

◇サミュエル・ピープスの日記より

すべての人は家財道具を持ち出そうとし、テムズ川に投げ込んだり、停泊している小舟の中に運び込んだりしていた。貧乏人たちは火が身体に触れそうになる直前まで家を離れず、それから船に逃げ込むか、河べりの階段を下り、栈橋を伝って隣の階段へと逃げるかした。火は四方八方の荒れ狂い、見たところ誰一人として消化に努力する者はなく、ただ家財道具を持ち出すだけで、あとは火事まかせだ。

誰も彼もが自分の家財道具を助けようと担いで逃げ出してくるし、病人をベッドのまま担ぐのもいる。驚くほどの荷物を荷馬車に載せたり、背中に担いだりしている。…中略…見かける人びとは皆ほとんど呆然自失で、火を消そうとする手段は全然講じていない。その上テムズ・ストリートあたりは一面家がびっしり建てこんで、燃える材料でいっぱいだ。ピッチ、タール、油、ワイン、ブランデーその他の倉庫。

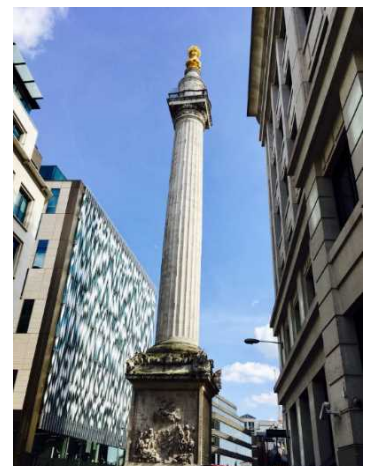
(1) ロンドンで4日間も火災が続いた原因を考えよう。



火災後再建されたセントポール教会

(2) 上のピープスの日記を読み、ロンドンの人びとは火事の際どんな行動をとったか読み取ろう！

(3) このような大規模な火災が起きないために、
どのような街づくりをする必要がある？



ロンドン大火記念塔

【目標】

**世界史の中で起こった災害について知り、人びとが災害とどのように向き合ってきたのか考え、
現代に生きる私たちがどのように災害備えていくべきか、考えよう!**

(1) 本時の授業の感想を述べて下さい。

【1】 古代都市ポンペイ 【2】 中世ヨーロッパ 【3】 エジプトはナイルの賜物 【4】 ロンドンの大火

【1】 ～ 【4】 の中で最も印象に残ったものはどれか選び、印象に残った理由を述べて下さい。

(2) 本時の授業で理解したことを述べて下さい。

(3) 本時の授業における疑問点や気になったことを述べて下さい。

(4) 本時の授業を実生活において、どのように活かしていきたいと思えますか。

() 年 () 組 () 番 氏名 ()